

# ゆきわりそう

～門前地域中高一貫教育だより～



門前地域中高一貫教育事務局 (発行)

## 地域に根ざした高校

石川県立門前高等学校 校長 上杉 直人



本校は昭和23年9月に石川県立輪島高等学校定時制課程門前分校として開校され、今年で創立65年目を迎えます。昭和32年4月に全日制課程に切り替え、昭和37年4月石川県立門前高等学校として石川県立輪島高等学校から独立しました。そして平成13年4月から門前地域の中学校と連携し、県内では唯一の「連携型中高一貫教育校」として、今日に至っています。この間、学舎から巣立った卒業生は約7700余名を数え、多くの有為な人材を輩出しています。

本校は3学年6クラスという小規模校ながらも勉学、部活動とも大いに成果を上げています。また、地域交流活動やボランティア活動にも積極的に取り組み、文武両道を実践し、「能登に光る学校」として、その存在感を県内外に示しています。

連携型中高一貫教育を進めるにあたり、本校は中学校と6年間を見通した学習指導、進路指導、生活指導に取り組んでいます。また、中学校と高校の教員の交流、生徒の交流も盛んに行い、こうした交流を通じて、門前地域の中高一貫教育が一層、活発になっています。中学校と連携してゆとりある教育を展開する中で、さまざまな特色ある取り組みを展開しています。

中高の緊密な連携によって、中高間での接続に起因する諸問題は減少しています。中高連携を図る上で、最も大切なことは「教職員の共通理解」であると私は考えます。例えば、生徒の学力向上の取り組みにおいて中学校、高校の教員が相互の教育課程や学習内容、学習評価を理解していなければ、効果は薄いのではないのでしょうか。

さて、中高一貫教育がスタートして12年が経過しようとしています。この間、年度ごとに中学校とともに成果と課題を検証し、よりよい連携の在り方を模索しながら学校の活性化に取り組んでまいりました。

地元から一人でも多くの子どもが門前高校に進学することが、学校の存続につながります。過疎や少子・高齢化は学校や地域にとって大きな問題であります。しかし、若者が町中<sup>まちなか</sup>を往き来するだけで活気が溢れてきます。高校生が地域に出て活躍することで、ますます学校の存在感が増し、魅力が輝いてきます。

子ども達を地元で育て、いったん門前町を離れても再びふるさとに戻り、地域を担い、貢献できる人間をつくるのが地域の学校の使命であると思います。本校に対し保護者、地域の方々から大きな期待や要望が寄せられていることをひしひしと感じています。学力向上や特別活動を通じた連携等、これまで培ってきた成果を踏まえ、地域の実情に応じた中高の連携をさらに推進し、地域の活性化に貢献していきたいと考えております。

同時に、門前高校そして地域の活性化にとって、皆様方のご理解とご支援、ご協力は不可欠です。皆様方の信頼を得られるような学校づくりを目指して、職員一丸となって努力しているところでありますので、今後ともよろしくお願いたします。

## 第2回中高全体会開催



2月12日（火）に門前高校で第2回中高全体会が開催されました。今年度の取り組みや来年度に向けての課題等について総括しました。

全体会の後、教科部会・教科外部会で中高合同行事の成果と課題、生徒の状況や基礎学力の定着を目標にした取り組みなどについて振り返りをしました。

## 門前東小への出前授業「英語活動」



門前中学校 春田 洋平 先生・岡田 あき 先生  
12月6日に門前東小学校で英語活動を行いました。6年生の皆さんに、中学校の「英語」の授業を体験してもらうことが目的でした。そのため、授業の展開として「読む・書く・聞く・話す」の4技能のバランスがとれたものを計画しました。また、あえて小学校の「外国語活動」では扱われていないものを題材にしました。「How much～?（～はいくらですか）」と値段を尋ねたり教えたりする表現を練習しましたが、品物の名前等は既に英語で言える力があり、外国語活動での知識を活用しながら取り組んでいたと思います。

「外国語活動」で使用されている教科書『Hi, Friends!』を開いてみると、使われている表現の多用さに驚きます。子どもたちは、音としてはかなりの英語を既に知っています。外国語活動で得た知識を活用させながら、音声を通したコミュニケーションを踏み台として、文字を読ませたり書かせたりする機会を与えて表現の幅を広げるようにするのが中学校英語の役割だと思っています。

また今回は、日本人の教員2人によるチームティーチングという利点も活かしました。「中学校になったらこんなふうに英語を話したいなあ」と思ってくれることを期待して、日本人同士の英語でのやりとりも多用しました。4月から、子供たちが自信と期待を持って英語の授業を受けてくれることを願っています。



## 門前中学校への進路指導講話・教科学習指導講話

今年度、新たに門前高校進路指導主事、福光英徳先生による進路指導講話が5月17日（木）に門前中学校にて開催されました。現在の高校卒業後の進路に始まり、受験の状況をふまえ、進路決定の為にどのように考え、生活しなければならないかをパワーポイントを用いて分かりやすく説明されました。また、昨年度から開催されている教科学習指導講話は、今年度7月下旬から8月上旬にかけて行われました。門前中学校3年生を対象に受験の為に学習にテーマをおいた講話が行われ、高校受験を控えた生徒たちにとって、夏休み中の学習方法や受験への心構え、そして今後の取り組みについての理解を深めました。

### 社会 船本 義則 先生

- ・ 社会の解答方法の注意事項
- ・ 重要語句を確実に身につける

### 理科 木浦 智 先生

- ・ 短期目標、中期目標、長期目標の立て方
- ・ 物事を関連づけて、考えながら勉強する大切さ

### 英語 加藤 浩子 先生

- ・ 英単語を覚えるコツと中学英単語の重要性
- ・ 日々の地道な努力を継続することの大切さ

### 国語 高 由紀 先生

- ・ 夏休み中の学習の取り組み方  
(練習プリントを用いて文法事項を中心に)

### 数学 高島 剛 先生

- ・ 弱点克服と模試の復習
- ・ 過去問などの実践練習
- ・ 受験に対する心構え

## 門前高校での3年間

門前高校3年 室谷 颯花



門前高校での三年間は、私を大きく成長させてくれました。三年前、門前高校への進学を決めた時は、馴染みの薄い町での生活に不安を感じていましたが、温かい先生方やクラスメートの中で、とても充実した高校生活を送ることが、出来ました。学ぶことや人と関わること、ひとつひとつの大切さを感じました。

地域に密着したボランティア活動は、門前高校の素晴らしい伝統の一つです。地元の海岸や参道の清掃、町内での一人暮らしをされている年配の方々への年賀状の送付など、自分の町を大切に作る心がけにとっても感心しました。中でも心に残っているのは、2年次に所属していた生徒会で行った、老人ホームへの手打ちそばの贈呈です。そばを受け取った入居者の方が、笑顔で「ありがとう」といって下さり、とても嬉しかったのを覚えています。ボランティアとは単なる援助行為ではなく、人と人のかかわりを強める行動なのだ学びました。

このような人と人同士の関わりの中で、私たちは毎日を過ごしてきました。私がそのことを強く実感したのは受験の時でした。最初は遠い世界のように思えた志望校への進学が叶った時、この喜びを報告しなければならぬ沢山の人のことが思い浮かびました。厳しく指導して下さいました先生方、応援してくれた家族、そして進路実現に向け共に努力した友人達です。自分の成功を伝えたいと思う人達は、私を支え、その成功への背中を押してくれた人たちなのだと思います。

4月からは、生活・学業いずれにおいても、新たな環境で多くの事を経験していくことと思います。門前高校で過ごした三年間の中で学んだことを忘れず、日々努力、精進し、一人の人間として恥じることはないよう、成長していきたいです。

## 憧れの門前高校

石川県立門前高等学校ソフトボール部 主将 高岸 志都佳



親元を離れ、自分のことは自分でする下宿生活。ソフトボールを通して出会う人々。

小学生の頃の私は門前高校ソフトボール部のそんなところに惹かれました。

姉の応援に行っても、どこのチームよりもやっぱり門前が一番かっこいい。あのユニフォームを着てみたい、というあこがれの気持ちがありました。学校が長い休みになると、室谷先生にお願いしてお世話になったりもして、他とはちがう何かを感じ、ただ傍にいたかったです。

高校は絶対門前高校に行きたい。そう思い続けてやっとの思いで長年の夢をかなえる事が出来て今ここにいます。

しかし、入ってみたはいいものの、何もできない自分はいまいかないことの連続です。

自分の理想と現実の違いに葛藤しながらも、学ばさせて頂くことの多さに本当に来てよかったと思っています。

地域の方と道ですれ違えば、あいさつや声をかけて下さる人がほとんどで、応援して下さいっている方々の為にも頑張りたい一心です。

自分で考えて行動することを頭において、初心を忘れず過ごしていきたいです。

## 「春に向けて」



門前中学校野球部 主将 長谷川 拓哉  
僕達野球部が目標としていることは、6月に行われる県体予選のブロックで優勝して、県体に行くということです。その目標に向けて、日々練習しています。この冬の練習では、走り込み、ティーバッティング、ボールを使った基礎的な練習を中心に練習しています。

走り込みの一つとして、15分間走をしています。15分間走では、走るコースが決まっています。

体力向上はもちろん、一人ひとりが何周走るかという目標をきめ、その達成に向けて走っています。

ティーバッティングでは、どのポイントで打てば、打球がどこへ行くかを意識しながら打っています。

僕たちは秋に県体に行くことができましたが、1回戦で負けてしまいました。相手は星稜中で、名前を聞くだけで「強い」と思ってしまう相手でしたが、この負けはとても悔しかったです。だからこの悔しさをバネにし、この冬しっかりと練習していこうと思います。

そして、「夏にもう一度県体について星稜中を倒す」ということが、門前中野球部の目標です。

### 中高合同新体力テスト

平成24年5月16日



### 中高合同講演会

平成24年11月15日



## 平成24年度の取り組み

### 1 学期

交流授業

第1回 中高一貫教育推進委員会

中高合同新体力テスト

交通安全推進隊結成式

第1回 中高全体会

第1回 保小中高一貫教育連絡会

「ゆきわりそう」発行

先輩と語る会

教科学習指導講話

門前高校体験入学

### 2 学期

交流授業

門前高校文化祭

門前中学校文化祭

中高合同講演会

第2回 保小中高一貫教育連絡会

募金活動

### 3 学期

交流授業

第2回 中高一貫教育推進委員会

第2回 中高全体会

第3回 保小中高一貫教育連絡会

「ゆきわりそう」発行

研究集録発行